

## 2025年に向けてのプラン

## 一宮市立木曾川市民病院

## 【現在、自院がこの地域で担っていると認識している機能・役割】

木曾川市民病院は、回復期リハビリテーション病棟を有し、一宮市立市民病院の連携支援病院としての役割を果たしている。

2018年度(平成30年度)病床機能報告	138床
(内訳) 回復期リハビリテーション病床(2階)	48床
急性期一般病床(4、5階)	65床
地域包括ケア病床(5階)	25床

## 【地域において今後担うべき役割】

木曾川市民病院は、地域の後方支援病院としてリハビリテーション機能を充実させ、在宅医療や介護・福祉へ円滑に移行するために必要な医療サービスを提供する。

## 【今後持つべき病床機能】

2025年度病床機能報告	138床 ⇒	130床 (△8床)
(内訳) 回復期リハビリテーション病床(2階)		48床
地域一般病床(4階)		14床
地域包括ケア病床(4、5階)		68床

## 【今後の方針：上記の役割・機能を満足するための要件(人員計画、設備投資計画を含む)】

回復期病院に特化するよう一般病床の見直しを行い、在宅医療や介護・福祉へ円滑に移行するために必要な医療サービスを提供する機能の充実を図る。

2019年度 5階の地域包括ケア病床を25床から33床へ増床する。

2020年度 4階、5階の病床を地域包括ケア病床とするための改修をする。

2021年度 4階の病床数を43床から39床とし、急性期一般病床から地域一般病床14床、地域包括ケア病床25床とする。

5階の病床数を47床から43床とし、全て地域包括ケア病床とする。

## 【その他数値目標等】

地域の診療所との連携を強化することで外来患者の受入れを増やし、また、病床利用率の増加を図る。

一宮市立市民病院との電子カルテの共通化を図り、また、再任用職員を活用して相互に患者を搬送ができる仕組みを取り入れ、更なる連携の強化を図る。